

1. 評価報告概要表

作成日平成22年 2月 8日

【評価実施概要】

事業所番号	1072200262
法人名	特定非営利活動法人あすなる会
事業所名	グループホーム結芽
所在地	北群馬郡榛東村新井1539-3 (電話) 0279-55-1568

評価機関名	特定非営利活動法人 群馬社会福祉評価機構
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12
訪問調査日	平成22年2月8日

【情報提供票より】(平成22年1月20日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成14年7月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10	常勤 6人, 非常勤 4人, 常勤換算 5.4人	

(2)建物概要

建物構造	木造平屋造り		
	1階建ての	1階 ~	1階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(月額)	33,000 円	その他の経費(月額)	光熱水費 700円/日 雑費 1,500円/月
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	1日 950 円		

(4)利用者の概要(1月20日現在)

利用者人数	8名	男性	4名	女性	4名
要介護1	2名	要介護2	2名		
要介護3	3名	要介護4	0名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 84歳	最低 78歳	最高 93歳		

(5)協力医療機関

協力医療機関名	榛東さით医院、菊池医院、真下歯科クリニック、関越中央病院
---------	-------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

榛名山中腹に立地するホームは、赤城山、武尊山、谷川岳が眺望できる豊かな自然に恵まれている。天気の良い日はホームの隣りにある公園に散歩に出かけ、遊んでいる親子やお年寄りに持参した菓子やお茶を勧めて和やかに地域の方との交流をしている。ホームの理念に謳う「入居者、家族、職員が三者一体のケア」を基本として、入居者一人ひとりがその人らしく、食事の準備や後片付け、裁縫等の日常の家事をしたり、絵を描いたり、碁を打ったり、レクリエーション活動等の趣味を楽しんだり、ゆったりと過ごして昔馴染んだ地域の暮らしができるよう支援している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価の取り組みとして、介護計画の期間を6ヶ月から3ヶ月に変更している。また、夜間を除いて自由に出入りをする入居者の見守りを行い鍵をかけないケアに取り組み、一日の水分量をチェックして介護記録に記載し摂取量の把握に努めている。重度化に向けての方針の共有については、引き続き検討中である。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>運営者、全職員は評価の意義を理解し、職員は自己評価の項目を分担し、意見を出し合って管理者がまとめている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>2ヶ月毎に運営推進会議は行われ、入居状況、行事運営、評価結果報告、その他等を議題に意見交換がなされている。地域のお祭りに入居者が参加してお神楽や踊り等が見られるように時間調整がされるなど、サービスに活かされている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>苦情相談受付窓口は重要事項説明書に明記して玄関入り口に掲示し、意見箱も設置している。また、家族にアンケートを実施したり、面会に見えた折に言葉をかけるなどの働きかけをしている。出された意見は検討し、運営に反映をさせている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>年2回の道路清掃に職員は参加し、近くのテニスコート使用の方にホーム内のトイレを貸したりしている。天気の良い日は近くの公園にポットを持参して散歩に出かけ、地域の方にお茶を勧め交流している。また、夏祭りのバーベキュー大会には近隣の方を招待したり、中学生の体験学習を受け入れたり、地域の方の介護相談に対応する等地域との交流を図っている。</p>

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設時からの理念を全職員で見直し、本人・家族・職員による三者一体のケアを基本として「ゆとりを持って、恵まれた自然の中で、のびのびと地域の人と共に、健康で安心出きる、ケア」を謳っている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者、職員は理念を共有し、玄関脇に大きな字で解り易く書かれ掲げられている。職員は一人ひとりの入居者のペースでゆったりと生活が楽しめるように日々支援に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、道路清掃に参加している。天気の良い日は近くの公園に出かけたり、地域の方と一緒にお茶を飲んだり、ホームの夏祭りには近隣の方を招待したり、近くのテニスコートを使用する方にホームのトイレを貸す等している。また、中学生の体験学習の受け入れ、地域の方の介護相談に応じ、地域の人達と交流を深めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者、全職員はサービス評価の意義を理解し、自己評価項目を全職員で分担し、振り返りをして意見を出し合い管理者がまとめている。評価結果については、職員に伝え改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎に運営推進会議は行われ、入居状況、行事運営、地域の状況、サービス評価結果報告等について意見交換がされている。地域の祭りに参加する入居者に配慮して、お神楽や踊り等が観られるよう時間調整をするなど、地域と密着したサービス向上に活かされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	スプリンクラー設置申請や事故報告、権利擁護利用について等社会福祉協議会や包括支援センター、行政担当者に相談や情報交換をしている。また、地域の介護相談の依頼をされたり、村と連携をしながらサービスの向上を図っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	入居者の暮らしぶりや健康状態等について、面会時に伝えている。急ぎの場合や遠方の家族には、電話で伝えている。また、「結芽だより」に掲載して家族に配布している。金銭は預かっておらず必要時にはホームで立て替えて、領収書を提示して支払ってもらっている。家族の了解を得て千円単位で持参して買い物する方もいる。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関の脇に意見箱が置かれ、苦情相談受付窓口が書かれている書類が掲示されている。家族にアンケートを配布したり、家族等の面会時には声をかけている。医療等に対する希望があり検討して運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	過去3年くらいは年に1人程度の離職者となっているが、勤務希望の調整や職員間のコミュニケーションを図れるよう親睦会を企画したり、良いところは褒め、お互いが尊重し合いう等の雰囲気作りを心掛けている。入職した職員には入居者と早く馴染めるようにコミュニケーションの重要性を指導している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は交替で認知症ケア、実践者研修等の研修に出席し、報告書を作成して会議の折に報告や回覧をしている。また、協力医療機関の研修会、資格取得のための外部研修等に参加できるように配慮している。新入職員には、管理者、先輩職員が指導を行い働きながらトレーニングしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス連絡協議会に加入し、講習会に参加して他ホームの職員と交流をしている。また、隣り町のグループホームと交流もあり、他ホームとの相互訪問研修もしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	希望があるとディサービスやハーモニカ演奏会等の催しに来てもらい、雰囲気を知ってもらうようにしている。また、入院先の老人保健施設に赴き、面会し情報を得ている。本人が安心出来るように頻回の面会を家族にお願いしたりしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者から蒔蒔作り、うどんや蕎麦打ち、正月飾りの縄ない等の生活文化を学んだり、「自分でできるから」と過剰な支援であることを気づかされたり、「疲れた顔してるね、大丈夫かい」と気遣いを示され、支えあう関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は入居者の私の暮らし方シート(趣味、行動、嗜好、生活等)を作成し、会議で検討する。困難な場合は家族から情報を得て、本人の思いや意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎日カンファレンスで問題点や気づきを検討し、家族が面会に見えた折に要望や意見を聞き、毎月行なわれる会議で話し合いをして、ケアマネージャーが介護計画を作成し、家族に了承を得ている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の期間は3ヶ月となっているが、問題点や身体状態の変化があると毎日のカンファレンスや毎月のモニタリング等で検討し介護計画の見直しがされているが、記録がされていない。	○	アセスメント、モニタリング等により見直された介護計画の内容を記録ができる介護計画用紙(の様式)の検討を期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	村の健康診断や選挙の投票所への送迎をしたり、地域の方の介護相談に応じたり、柔軟な支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医の受診には家族が同行し、在宅療養支援診療所医がかかりつけ医の方には月2回往診がある。インフルエンザの予防接種は、ホーム支援医が往診に見えて職員、入居者は接種している。また歯科医の往診もあり、入歯の調整、治療等がなされて、適切な医療を受けられるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に、ホームで対応し得る重度化や終末期について説明をして、了承を得ている。重度化や急変時等は、支援医から病院に連絡し入院としている。本人、家族、かかりつけ医、管理者は話し合いをして、方針の共有を図っている。	○	重度化や終末期について家族、医師、ホームで話し合いが行われ、その時々々の家族の意向を確認しているが、その内容を介護記録等に記載し、重度化の指針についても検討を期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	排泄誘導時には小声で言葉をかけて、誇りやプライバシーを損ねないよう配慮している。個人記録類は事務所に保管し、職員は運営規程第10条ー2に謳う秘密保持の遵守をしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や入浴等その方のペースを大切にした支援を心がけている。また、絵を描いたり、基ならべや裁縫等希望に添って楽しめるよう支援をしている、		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むきやすじとり、おしぼり配り、後片付け等職員と一緒にしている。入居者と職員は会話しながらの食事をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回を入浴日としているが、希望があると毎日でも入浴が可能である。拒否する方には声かけを工夫したり、タイミングをずらしたり、清拭や更衣で対応する場合もある。また、季節の柚子、林檎、菖蒲、よもぎ、バラ、入浴剤等で気持ちよく入浴を出来るよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者は、朝のカーテン開け、清掃、日付け書き、おしぼり配り、洗濯物干しやたたみ、職員と一緒に蒲団を敷いたり等役割を担っている。また、絵を描いたり、裁縫、碁並べ、塗り絵等の趣味を楽しんだり、近くの公園に散歩に出かけて遊んでいる親子や老人と一緒にお茶を楽しむ等気晴らしの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は散歩に出かけたり、洗濯物干しや庭の草花の水遣り等を入居者を誘い行っている。また、ベランダでティータイムや外気浴をしている。月1回は季節の花見、林檎狩り、外食、初詣、スーパーマーケットでの買い物等戸外へ出かけられるよう支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	管理者、職員は玄関に鍵をかける弊害を理解し、日中は玄関の鍵はかけていない。入居者は職員に見守られ、自由に玄関を出入りし、見守りのもと十分歩いた所で職員と一緒にホームへもどってくる等支援している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年3回の内1回は消防署の指導の下に火災訓練を実施し、避難経路、避難場所を確認している。また、防火設備会社による定期点検並びに夜間想定や震災等について避難訓練をしている。近隣宅には災害時の協力を依頼している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量・水分量はチェックされ、介護記録に記載し、その情報は共有されている。献立は入居者の希望を入れて作成し、嚥下障害の方には粥食やトロミ食を提供したり、便秘の方には水分を多く飲んでもらい、体調に合わせて支援をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には季節の花が飾られ、腰かけて履物を履けるように長椅子が置かれている。ホールは吹き抜けて圧迫感がなく、中央にはテーブルが置かれて食事や入居者が集う場となっている。また、壁には入居者の生活ぶりや行事の様子が貼られている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は使い慣れた筆筒、時計、テーブル等が置かれ、入居者の描いた絵、カレンダー等が掛けられている。冷暖房、洗面台が設置されて、生活スタイルに合わせてベッドや蒲団などそれぞれが居心地よく過ごせるよう工夫をしている。		